

令和6年度 重点目標達成のためのアクションプラン

氷見市立十二町小学校

＜本年度の重点目標＞

「伝え合い」 ～進んで思いや考えを伝え合う子供の育成～

	アクションプラン1		アクションプラン2	
重点課題	確かな学力の育成		豊かな心の育成	
前年度の課題	- 教材の提示の仕方や子供の思いを大切にした課題の設定をしたことで、子供は主体的に学習に取り組むことができた。一方、授業において、自分の思いや考えを話したり書いたりすることが苦手な子供が多かった。今年度は定期的に「対話タイム」を行う。一人一人が思いや考えを伝え合う場を設定し、話す機会を確保するとともに互いに聴き合う環境を築いていくことができるようにする。 - 挨拶運動中は、挨拶をする子供が増えたが、挨拶運動が儀式化し、「自分から進んで」「相手の目を見て」「会釈をして」等、気持ちのよい挨拶を全校に広げることができなかった。今年度は、子供たちが主体となって挨拶運動ができるよう、代表委員会で方策を考え、実践していく。また、実践について振り返る方法や掲示物を工夫し、自分や友達のよいところを捉えとともに、学校全体に気持ちよい挨拶を広げていくようにする。			
具体的な達成目標 (数値目標)	進んで思いや考えを話すことができる (75%以上) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)		気持ちのよい挨拶をすることができる (85%以上) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)	
行動Ⅰ (方策)	＜方策1＞ ・自分の思いや考えを伝えられるよう、定期的に「対話タイム」を行い、自分の言葉で話す機会を確保する。 ＜方策2＞ ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることができるよう、「話型」を各教室に掲示し、その言葉を生かして話ができるようにする。		＜方策1＞ ・子供たちが主体となって挨拶運動を進めることができるよう、挨拶について代表委員会で方策を考え、継続して実践・振り返りを行う。 ＜方策2＞ ・挨拶の輪を広められるよう、自分の挨拶の仕方を振り返り、自己評価できる「あいさつカード」を活用する。また、気持ちのよい挨拶をしている友達を伝えることができるカードを用意し、「ほかほかあいさつの木」に掲示していく。	
中間評価	＜方策1＞ A	＜方策2＞ B	＜方策1＞ A	＜方策2＞ B
	・1学期の対話タイムでは、学校行事等に関する内容を学級で話し合った。月に1回、学級で話し合った内容を家庭でも話し合い、ワークシートに子供と保護者が振り返りを書いた。子供へのアンケート「対話タイムで目を見たり、うなずいたりしながら友達の話の聞いていたか」「対話タイムで自分の思ったことや考えたことを分かりやすく話すことができたか」「対話タイムで友達に質問することができたか」では、3項目全てのA B評価が75%以上であった。子供たちは対話タイムを通して、自分の思いや考えを伝えること、友達の話の聞き、質問することができたことと捉えており、今後も継続していく必要がある。 ・1学期に詳しく話すことや質問をするための「話型」を各教室に掲示した。子供へのアンケート「話型を基に理由を伝えるなど、詳しく話すことができたか」では、A B評価は84%であったが、A評価は32%と低かった。保護者へのアンケート「家庭での対話タイムでいつ、どこで、誰とや理由を踏まえて詳しく話していたか」では、A B評価は75%であつ		・「学校、家庭、地域で気持ちのよい挨拶をしている」と答えた子供は、85%以上であった。また、「家庭で挨拶をしている」と答えた保護者は、85%以上であった。各学級、代表委員会、6年生で挨拶の仕方について話し合い、重点ポイントを決め挨拶週間を行ったことで、子供たちは意識して取り組んでいたと考える。一方で、「子供は地域の人に挨拶をしている」と答えた保護者は、63%であった。また、「学童や地域で気持ちのよい挨拶をしている」と答えた子供は87%であったが、その内A評価が38%と低かった。今後、学校だけでなく地域の方にも気持ちのよい挨拶ができるようにしていきたい。 ・「ほかほかあいさつの木」を設け、挨拶について自分ができたことや挨拶のよさについて記入したカードを玄関ホールに掲示したことで、気持ちのよい挨拶への意欲が高まった。また、気持ちのよい挨拶をしている友達を紹介するカードも一緒に掲示したことで、自他のよさに気づき、これからも気持ちのよい挨拶をしようとする意欲につながった。	

	たが、A評価は13%であった。授業や対話タイム等で話しにくい子供には「話型」を活用する機会を増やしたり、「話型」を基に話の構成を考えたりするなど、詳しく話すことができるよう活用方法を検討する必要がある。		
中間評価公表	ホームページ・学校だより		
行動Ⅱ (方策)	＜方策1＞ - 自分の思いや考えを詳しく伝えられるよう、対話タイムでは、話型を基に話の構成を考えたり、話す順序を工夫したりして話す。 ＜方策2＞ - 一人一人の話す機会を確保し、自分の思いや考えを詳しく伝えられるよう、学習の目的に応じて人数や構成、時間を吟味してペア・グループ学習で話し合いを行う。		＜方策1＞ - 子供たちが進んで気持ちのよい挨拶ができるよう、6年生や代表委員を中心に、挨拶に関する現状や課題、方策等を話し合い、子供たちの実態に応じた目標を設定し、挨拶運動を行う。 ＜方策2＞ - 気持ちのよい挨拶をしようと意識付けできるよう、重点ポイントについて振り返る「あいさつカード」を用いる。また、「あいさつカード」に書かれた内容を適宜放送し、子供たちに友達のよさを伝える。
総合評価	＜方策1＞ A	＜方策2＞ A	＜方策1＞ A
	＜達成目標＞ A		＜達成目標＞ A
	・「全員に聞こえる声の大きさや速さで話すことができたか」「話型を基に詳しく話すことができたか」では、A B評価で75%以上であった。2学期の対話タイムでは、話型を基に順序を工夫したり、詳しく話したりできるよう、板書等で大切な視点を事前に示したことが有効であったと考える。 ・「目を見たり、うなずいたりしながら友達の話を聞いていたか」「友達に質問することができたか」では、A B評価が85%以上であった。対話タイムや授業で一人一人が話す機会を多く確保したり、グループの構成を工夫したりしたことで、友達の考えをよく聞き、質問することができたことと実感できたからと考える。また、子供たちの聞く意識や態度が向上し、安心して話せる環境ができ、一人一人が進んで思いや考えを話している姿がみられるようになった。		・6年生や代表委員を中心に、挨拶運動の課題、方策を話し合い、重点ポイントを明確にしたことで、「気持ちのよいあいさつをしている」と答えた子供は、90%以上であった。また、「子供は地域の人に挨拶をしている」と答えた保護者は、1学期よりA B評価合わせて22%増えた。2学期は、学校行事等で地域の方とふれあう機会が多く、実際に子供たちが挨拶をしている姿を見る機会が増えたため、保護者は子供が気持ちのよい挨拶ができていると実感できたからと考える。 ・「あいさつカード」を用い、自分の挨拶を振り返ったり友達の挨拶のよさを放送で伝えたりしたことで、自分も気持ちのよい挨拶をしようとする意欲につながったと考える。
年度末評価公表	ホームページ・学校だより		
次年度への課題	・教室に「話型」を掲示したことによって「話型を基に理由を伝えるなど、詳しく話すことができた」では、A評価は26%であった。子供が詳しく話したり、できたことと実感したりするためには、教師が問い返したり、子供の話し方でよかった点を具体的に伝えたりする必要がある。 ・学習の振り返り等、書くときにも「話型」を活用することで、順序や理由等を踏まえた詳しい文章を書く力を話す力とともに高めていく必要がある。		・1学期よりも子供・保護者ともにD評価がわずかに増えたため、その部分にも焦点を当てた取り組みを工夫し、気持ちのよい挨拶ができる子供を増やしていきたい。 ・持続可能な十二町地区を目指すためにも、今後も地域の方への挨拶する子供が増えるよう取り組んでいく必要がある。

【評価基準】

- ・「方策」 A…目標達成に効果があった B…目標達成にやや効果があった
C…目標達成にあまり効果がなかった D…目標達成に効果がなかった
- ・「総合評価」 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった